

がんと闘う人々を支えたい

高田 由香 (高34)

静岡がんセンター*よるず相談で専任の相談員。相談者に寄り添う温厚な対応は心安らぐ。

命のリレー

みなさんは「リレー・フォー・ライフ(命のリレー)」という言葉を知っていますか? リレー・フォー・ライフは、がん患者支援のための基金を集める夜間越えのチャリティ・イベントです。一九八五年にアメリカ・ワシントン州シアトル郊外で、アメリカ対がん協会のクラット医師が競技場を二十四時間走り寄付を募ったのが始まりです。

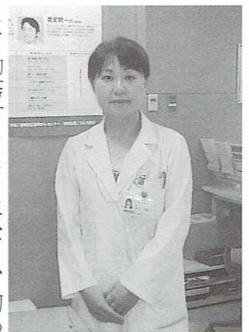


アグネス・チャンさんと(筆者左端)

現在では、患者や家族、医師や友人がチームを組み、リレー形式でたすきをつなぎながら歩き続ける中で、地域社会全体でがんと闘うための連帯感を育む場となっています。イベント当日は、癌の告知を乗り越えた人達が元気に行進する「サバイバーウォーク」で幕を開けます。華やかなステージイベントや、希望と追悼の灯の「ルミナリエ」など必ず同じプログラムで行われ、今や全米五カ所、世界十九カ国で行われています。イベントはボランティアの手作りで運営され、参加者の寄付金・企業協賛金などが、コールセンター運営等のがん患者支援活動の基金として使われています。

使命感から参加

私が静岡がんセンターのよろず相談で医療ソーシャルワーカーと



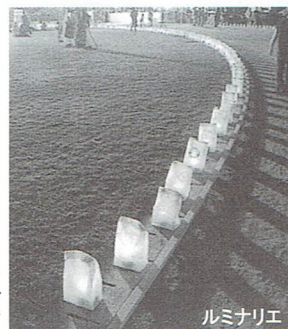
よるず相談前で

して勤務するようになり、初めて「三人に一人が癌になる時代」という言葉を実感しました。日常には病気や生活で大変苦労されている方々の援助をしています。時には圧倒されるくらい「生きる」ことの大変さを教えてくれる患者さんとの出会いもあります。私がリレー・フォー・ライフに参加したきっかけは社会福祉士として患者支援活動をお手伝いするという使命感からでした。ところが活動しているうちに、自分自身の意識が変化してきました。

本当のボランティアとは

ボランティアという言葉はラテン語で「自由意思で決定する」という意味をもつ「voluntas(ボランティア)」に由来しています。それが「喜び」や「精神」を意味するフランス語「volonté(ボランティア)」になり、英語の「volunteer(ボランティア)」が生まれたといわれています。つまりボランティアは「自分の意思で自発的に行うもの」ということになりました。

リレー・フォー・ライフは市民ボランティアによる活動です。ここでは病気のあるなしに関わらず、がん患者・家族・市民・医療従事者・行政・企業などがそれぞれの想い一つにし、社会全体でがんと向き合う世の中を目指すものです。個人個人の能力をミッション達成のために最大限に活かす事、またその活動を通して自分自身が達成感や感動や喜びを得ることこそ、本当のボランティア活動なのだと思ふようになりました。



ルミナリエ
メッセージを書いた白い小さな袋。トラックの周りに並べ、キャンドルに火を灯す

何を成すべきか

昨年は九月十月にかけて、全国六カ所の会場でリレー・フォー・ライフのチャリティ・イベントが開かれ、延べ一万人を超える方が参加されました。その模様は、去る十一月七日にNHKで「輝け! 命のリレー」〜一万人の祈り 二十四時間ウォーク〜という番組で紹介されました。日本対がん協会の「ほほえみ大使」であるアグネス・チャンも各地のイベントに参加した体験を語っていました。私も新横浜の会場に参加し、チームの仲間とグラウンドを歩きました。

。日中は歩きながらお互いの体験や思いなどを語り合ったり、ステージで繰り広げられるイベントに歓喜したり。夜間はルミナリエの灯に導かれながら自分自身と対話していました。

これからの活動

とにかく静岡でこの活動を広めようと、仲間達と動き始めました。まずは各地区の健康まつりなどで、早期発見のための検診を呼びかけ、癌という病気のことを知ってもらうための啓発活動をしています。そして今年九月に御殿場で開催するイベントの準備も進めています。(ホームページ: <http://fshizuka.web.fc2.com/>)

参加の方法は、寄付やチーム、ボランティアなど様々です。是非、あなたも一緒に歩いてみませんか? *

よるず相談では、がんに関する疑問や悩みを持つ全国の患者さんやその家族のために対面あるいは電話相談を行っています。